令和５年度第１回第 11 期国分寺市立子ども家庭支援センター運営協議会

日　　時：令和５年５月 27 日（土）　午前 10 時～正午
場　　所：国分寺市立子ども家庭支援センター　地域活動室
出席委員：髙橋、村松、佐土原、賀來、廣松、波田、岡本、井原
事 務 局 ：石丸，杉野，齋藤，乙津，渡辺
事 務 局 ：では、皆様おそろいですので、定刻になりましたので、協議会のほうを始めさせていただきたいと思います。本日、お忙しい中集まりいただいて、本当にありがとうございます。市の小・中学校の運動会なんかもあって、お忙しい時期になってしまって、大変ご迷惑をおかけしますが、ありがとうございます。

私、本会議の事務局の子ども家庭部子育て相談室長です。この４月からこちらに着任しております。どうぞよろしくお願いいたします。会長が選出されるまでの間、事務局のほうで進行させていただきたいと思います。まず開会に先立ちまして、副市長よりご挨拶させていただきたいと思います。お願いいたします。

副 市 長 ：皆さん、おはようございます。副市長です。本日は、早朝より令和５年度第１回国分寺市子ども家庭支援センター運営協議会にお集まりいただき、本当にありがとうございます。今、事務局からありましたけれども、運動会と重なって、お忙しいところ、本当に申し訳ありません。よろしくお願いいたします。

なお、本来であれば、市長がこの場で、ご挨拶と諮問をするところでございますが、コロナが落ち着いてきたので、様々事業が復活してきて、公務が重なったため、ちょっとこちらにお伺いすることができませんでしたので、市長より運営センターの開催に当たって、メッセージを預かってきましたので、代読させていただきたいと思います。

本日は、令和５年度第１回国分寺市立子ども家庭支援センター運営協議会にご出席いただいて、誠にありがとうございます。国分寺市立子ども家庭支援センターは平成 13 年に開設され、平成 18 年には児童虐待相談も対応する先駆型の子ども家庭支援センターとなり、国分寺市における子育て相談の総合相談窓口として位置づけております。

都市化が進んだ現在では、核家族化や地域のコミュニティーの縮小から、子育てに孤立感や不安感を抱く家庭も少なくありません。現在、子ども家庭支援センターでは、親子ひろばや子育て応援パートナーなどの事業等を展開し、子育て支援を実施をしております。

国においても、４月より、こどもまんなか社会の実現のため、こども家庭庁が設置をされ、虐待防止や少子化対策がより一層必要とされています。本協議会では、子ども家庭支援センターの活動内容及び運営に関する事項にご審議いただき、答申を頂いております。

今回は、子ども家庭支援センターにおける父親支援について諮問をいたしますが、どのような取組を行う必要があるのか、ご意見を頂けたらと考えております。皆様から頂いたご意見を踏まえ、今後の事業の実施に生かしてまいりたいと思います。

最後に、市の子育て支援の充実のため、皆様のご理解ご協力をお願い申し上げて、挨拶とさせていただきます。

令和５年５月 27 日、国分寺市長。

では、皆さん、よろしくお願いいたします。

事 務 局 ：ありがとうございました。では、会議を進める前に、進行上の注意をお伝えしたいと思います。１枚、「会議の開催にあたって」というものもあるので、後で見ていただければと思うのですが、この会議は公開となっております。今、いらっしゃらないのですけれども、傍聴の方が入られることがございますので、ご了承ください。それから、記録のために録音を取らせていただきます。発言の際には、所属とお名前をおっしゃってから発言いただけるように、よろしくお願いいたします。

本日の流れにつきましては、この後、次第に沿いまして、委嘱状の交付を行って、その後、各委員の自己紹介を頂き、会議の会長、副会長の選出を行います。会長が決定しましたら、進行のほうは会長のほうにお譲りしたいと思います。

では、委嘱状の交付になりますが、今回、委嘱状につきましては、机上配布で交付という形をさせていただきたいと思いますので、皆様どうぞご確認くださいますようお願いいたします。

それでは、委嘱状をお渡ししたということで、自己紹介をしていただきたいと思うのですけれども、配布資料の２枚目の１番に名簿がございます。欠席の方も今日いらっしゃるのですけれども、順番に自己紹介。１分程度で結構ですので、ご紹介いただければと思います。名簿の順番に、こちらからお願いしてもよろしいでしょうか。

委　　員：はじめまして、公募により選出されました。よろしくお願いします。一応、個人としては、５年ほど前からお母さんたち向けの託児付きの整骨院というのをやっております。あとは任意団体として、お母さんたちが集まって、いろいろな講座を受けられるような任意団体をつくって、そちらも活動しております。よろしくお願いいたします。

委　　員：支援センターの利用者です。よろしくお願いします。今は、小学校３年生の男女の双子を育てています。実家も離れていますし、市のいろいろな事業を利用させていただきながら、いろいろな方々に助けていただきながら、何とかここまで育ててこれたという感謝の気持ちを持って、この協議会に参加させていた

だいています。一市民として、利用者として、お話しできたらと思います。よろしくお願いいたします。

委　　員：私も支援センターの利用者です。下のぶんちっちによく行かせていただいていて、１歳７か月の長男が、今、下にも来ているんです。父親として、多分、結構いろいろと、こんなことやってほしいって、あまり思うことないのですけれども、そういうことを考える場になればいいなと思っています。よろしくお願いします。

委　　員：国分寺市と協働事業の親子ひろば市民室内プール親子ひろば「コアラッコ」で、現在、３年公募のほうが２期終わって、３期目をさせていただいております。親子ひろばの現状が、やはりコロナ前と今からの、コロナ後のひろばというのは、随分変わっていくと思いますので、その辺も踏まえた上で、一緒にお話をさせていただければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

委　　員：私は、民生・主任児童委員の東部地区を担当しております。よろしくお願いいたします。私は、こういった机上での会議がすごく苦手で、どちらかというと、今、事務局がお話しされたように運動会とか大好きで、今、行っておりました。よろしくお願いします。

　私は、二十数年前に、ここが立ち上がる前に、市民として、いろいろな年齢の子どもを持っている人というので声がかかって、ここの立ち上げの時に、実は参加させていただいていまして、すごく愛着はあります。よろしくお願いいたします。

委　　員：皆様、おはようございます。東京都小平児童相談所長でございます。身近な子育ての相談というところでは、この国分寺市の子ども家庭支援センターだと思うのですけれども、それよりもう少し、専門的なご相談、今、扱っているご相談のメインは、虐待相談になりますけれども、大体、全体の相談の６割弱ぐらいがもう虐待相談ということになっておりますけれども。

小平児童相談所は、こちらからは車だと１時間はかからないのですけれども、30～40 分は確実にかかるというふうな場所にございまして、あまり皆様とは身近な施設ではないかもしれませんけれども、少しでも、お役に立てればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

委　　員：おはようございます。国分寺市小・中学校ＰＴＡ連合会の副会長を昨年度務めておりまして、こちらに推薦をしていただきました。今、放課後等デイサービスで保育士として勤めておりまして、児童発達支援管理責任者のＯＪＴを、今、しておるところです。お力になれたらいいなと思って、本日参りました。どうぞよろしくお願いいたします。

委　　員：よろしくお願いいたします。ここから近い白梅学園大学というところで児童福祉を担当しているというところで、最近、ほかの科目もいろいろ持って何やっているのだろうと思いますけれども、それと最近、その職務の宛て職みたいな

感じで、小平市にあります社会福祉法人小松福祉会という姉妹法人があって、そこで保育園を３か所あるのですけれども、そこで一応理事長もやらせていただいております。

私自身も、子どもが上が小学校２年生で、下が今度年少になります。今日も午後から連れ合いが仕事に行くので、午前、午後でバトンタッチしてという感じですが、そういう当事者として、一応括弧付きでお願いしたいのですが、私、識見を有する者ということで参加をさせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。前期からの引き続きでございます。

事 務 局 ：皆様、ありがとうございました。続いて、事務局のほうもご紹介させていただきたいと思います。資料 10 御覧いただければと思います。私、子育て相談室長、子ども家庭支援センター長を兼任しております。よろしくお願いいたします。

部　　長：おはようございます。改めまして、子ども家庭部長です。本日はお忙しい中、ありがとうございます。私のほうは先ほど冒頭副市長のほうからお話があったとおり、国のほうもこども家庭庁が設置されて、こどもまんなか社会ということで、様々な事業を展開しております。国もそうですし、東京都もそうです。市としてもそれを受けまして、様々な事業を展開しております。

子育てに関してというのは、今、非常に注目を受けておりますので、ぜひ、いい形で展開してまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。様々なご意見いただきたいと思います。本日はよろしくお願いします。

事 務 局 ：おはようございます。子ども家庭支援センター相談担当係長です。子ども家庭支援センターの相談担当とか、生まれる前のお子さんを妊娠されていらっしゃる親御さんから、18 歳までのお子様を育てる親、関係者、お子さん本人から、お話をお伺いさせていただいております。

また、支援が必要なご家庭に関して連携を組んで、ネットワークを組んで、ご家庭を支援するということで要保護児童対策地域協議会と協議会、会議体があるのですけれども、そちらの調整機関として活動、業務を行っているとともに、サービス、支援、ご家庭の子育てがしやすくなるような支援、サービスを提供させていただいております。

また、今年度の４月から、言葉としては、すごくホットなテーマではございますけれども、ヤングケアラーに関する支援を、この子ども家庭支援センターの子育て相談室のほうで行うこととなっております。

今現在は、まだ直接的にお子様ですとか、ご家族に対して、具体的にこういうことをやっていくというところは、まだ明確にはなっていないところではございますが、まずは関係機関の皆様と顔つなぎをさせていただいて、何かお困りのご家庭がありそうだぞとなったときに、すぐに子ども家庭支援センターに

つないでいただけるような、そういった関係性をつくっていきたいと思っておりますので、また皆様方にもご協力、ご相談をさせていただくことがあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

事 務 局 ：子ども家庭支援センターの地域担当係長です。本日は、よろしくお願いいたします。私のほうは、親子ひろばですとか、利用者支援事業（基本型）と言われております子育て応援パートナー事業、あとは、本日、諮問させていただけます子ども家庭支援センターの地域組織化事業のほうを担当させていただいております。

日頃から、地域の皆さんにご協力いただきながら、事業を行っているところになります。本日、父親支援ということで、私どもの担当の業務になるところではございますので、皆さんの忌憚のないご意見を頂ければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

事 務 局：子ども家庭支援センターの地域担当の事務をしております。事務全般をやっております。運営協議会のほうで担当させていただきますので、至らない点もあると思いますが、よろしくお願いいたします。

事 務 局：子ども家庭支援センター地域担当です。どうぞよろしくお願いいたします。

事 務 局 ：それでは、続きまして、会長、副会長の選出に移りたいと思います。国分寺市子ども家庭支援センター運営協議会設置条例第５条の規定に基づきまして、会長、副会長は委員の互選によって定めることとなっております。

まず、会長に立候補、または、ご推薦について、ご意見ある方いらっしゃいましたらお願いをしたいと思いますが、いかがでしょうか。

委　　員：すみません。

事 務 局：委員、お願いします。

委　　員：前期も参加させていただいたのですけれども、発言しやすい活発な協議会だと思いますので、引き続き、井原先生にお願いをできたらと、ご推薦したいと思います。

事 務 局 ：ありがとうございます。今、井原先生を会長にご推薦のご意見いただいたんですけれども、皆様いかがでしょうか。

では、拍手でご承認いただければと思います。

（拍手）

事 務 局 ：井原先生、お引き受けいただけますか。

会　　長：よろしくお願いいたします。

事 務 局 ：よろしくお願いします。副会長については、ご意見ございますか。

会　　長：私としては、前回に引き続き、片岡先生にお願いできれば。今日、ご欠席ですけれども、片岡先生と事前打合せを含めて、いろいろ話合いもして、私の至らない点含めてフォローしていただきましたので、前回と同様に片岡先生にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

事 務 局 ：いかがでしょうか。よろしいですか。

（拍手）

事 務 局 ：ありがとうございます。それでは、皆様にご承認いただきましたので、会長、井原先生、今日ちょっとご欠席ではあるんですけれども、副会長を片岡先生のほうにお願いをしたいと思います。では、よろしくお願いいたします。

それでは、会長、副会長を決定しましたので、こちらの席に、井原先生、お移りいただきまして。すみません。

それでは、諮問書の交付に入りたいと思います。副市長から会長宛てに、よろしくお願いいたします。

副 市 長 ：それでは、諮問をさせていただきます。

令和５年諮問第１号。令和５年５月 27 日。

国分寺市立子ども家庭支援センター運営協議会会長殿。国分寺市市長井澤邦夫。

諮問書。国分寺市立子ども家庭支援センター運営協議会設置条例、平成 13 年条例第 14 号第２条の規定に基づき、下記について諮問します。

記

子ども家庭支援センター地域組織化事業における父親支援の取組に関すること。

以上でございます。

会長、よろしくお願いいたします。

会　　長：承知いたしました。

副 市 長 ：皆様、よろしくお願いいたします。

事 務 局 ：では、諮問書の写しを皆さんにはお配りしたいと思います。ここで、この後、公務の都合がございまして、副部長と部長のほうは退室させていただきたいと思います。

副 市 長 ：では皆さん、よろしくお願いいたします。

事 務 局：では、ここから先は委員のほうに、会長のほうに司会のほうを譲りまして、進行のほうを進めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

会　　長：では改めまして、よろしくお願いをいたします。前回に引き続きということで、私自身も先ほどお話をしましたように、子育て中でございます。積極的に皆さんのご意見を頂きながら、先ほど頂きました諮問に対して、答申をまとめていきたいというところでございます。

ちょっとすみません。私、４月ぐらいからずっとせきが出ていて、最近ハウスダストが原因ではないかということで、家にいづらい立場でございます。外のほうが呼吸が楽だという、ちょっと不思議な状況ではございますが、どうぞよろしくお願いします。その関係で、ちょっと喉あめをなめながらさせていただくかもしれませんが、どうぞご容赦ください。

では、早速ですが、出席状況の確認を事務局にお願いをいたします。

事 務 局：本日、出席委員が８名、欠席委員が３名ということで、委員の過半数の出席がありますので、国分寺市立子ども家庭支援センター運営協議会設置条例第６条第２項に基づき、国分寺市立子ども家庭支援センター運営協議会を開催できることを確認しております。よろしくお願いいたします。

会　　長：ありがとうございます。定数確認ができましたので、改めまして、第１回子ども家庭支援センター運営協議会を開催いたします。

それでは、次第の３は終わりまして、議事に早速入ってまいりたいと思います。

本日の議題は、先ほども諮問いただきましたけれども、「国分寺市立子ども家庭支援センター地域組織化事業における父親支援の取組」に関することということでございます。

本件につきまして、事務局より会議の進め方、諮問の趣旨等について、説明をお願いいたします。

事 務 局：事務局になります。それでは、配付資料の説明も併せて行わせていただきます。

お配りしました資料２、こちらは子ども家庭支援センターの運営協議会の設置条例になります。こちらは、本協議会の設置について定められている条例となります。

本協議会は、子ども家庭支援センターの活動内容や運営に関して、市長の諮問に基づき、審議する附属機関となっております。なお、資料１につきましては、本条例第３条に基づき、委員を先ほど委嘱をさせていただいている名簿となります。あわせてご確認いただければと思います。

国分寺市の子ども家庭支援センターは、東京都における子ども家庭支援センター事業実施要綱に基づき条例を定めて、設置している公の施設となります。子ども家庭支援センターの活動内容につきましては、資料３、４になります。後ほどご確認いただければと思います。

それでは、資料５，今回の諮問の趣旨になります。先ほど、諮問書を交付されていただいておりますとおり「子ども家庭支援センター地域組織化事業における父親支援の取組について」を、今回皆様にご審議いただきます。

現在、子ども家庭支援センター内にあります西部地区拠点親子ひろばにおいて、父親支援の取組として、父親を対象とした遊びをテーマとした子育ての講座や、父親を対象としたフリートーキングの会などを様々実施しております。

父親を対象としたフリートーキングの会は、親子ひろば事業における子育て支援に関する講座の１つとしてだけではなくて、子ども家庭支援センターの地域組織化事業としての役割もあわせ持つ取組となっております。

開所当時につきましては、フリートーキングの中で知り合った父親同士が連絡先を交換し、交流を深め、父親グループとして、地域の中で活動することに

つながっておりましたが、昨今では参加者がなかなか定着せず、自主グループとしての活動につながらないということが課題となっております。
また、本日、資料では抜粋版という形でお示しさせていただいておりますが、令和５年３月に改訂されました成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針において、出産や育児への父親の積極的な関わりにより、母親の精神的な安定をもたらすことが期待される一方、父親の産後うつが課題となっており、母親を支えるという役割が期待される父親についても支援される立場にあり、父親の孤立を防ぐ対策を講じることが急務であるとされております。

こうした社会情勢も踏まえまして、子ども家庭支援センターの地域組織化事業における父親における今後の取組について、皆様にご意見を頂きたいというのが、今回、諮問させていただきました趣旨となります。

続いて、資料６になります。皆様にご審議いただくスケジュールになっております。令和５年度では、本日を含めまして、４回の審議日程を予定しております。今回、諮問させていただきました第１号を今年度、４回をかけて、皆様に審議していただく予定としております。

本日につきましては、事業の審議の方向性の確認等させていただきながら、皆様に本日からご審議を頂ければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。進め方につきましては、後ほど、協議会の中で、具体的にご審議いただければと考えております。

続きまして、資料７以降につきましては、このたび父親支援についてご審議いただくということに当たりまして、父親の状況やニーズに関する状況について、確認いただくための資料となっております。

それでは、資料７の説明につきましては，子ども家庭支援センター相談担当より、ご説明をさせていただきます。

事 務 局 ：資料７を御覧くださいませ。「子ども家庭支援センター父親支援実施状況について」ということで記載されております。表面がパパトーキングというもの、裏面がパパ向けチラシということでございます。また、後ほどご説明させていただきます。

まず、表面のパパトーキングについて、簡単ではございますが、ご説明をさせていただきます。

こちらの事業、平成 26 年度から実施をしておりまして、目的といたしましては、父親同士の交流の場を提供することで、男性の育児参加の機会を創出するとともに、住民の自助・共助の子育て支援活動等の促進につなげるというところでございます。

この目的に沿って、この数年間事業を行ってまいりました。先ほどは事務局からの報告にもございましたけれども、このパパトーキングを始めたときは、

参加者の皆様方が集まって、かなり積極的な意見交換を行われております。

その中で、「では、今度、父親で集まって飲み会行こうよ」とか「飲み会やろうぜ」という話が沸き上がり、複数回、飲み会が開催され、それがちょっと活発化してくると、「では、今度うちに遊びおいでよ」みたいな感じで、お子さんも連れて、遊びに行くというような関係性というところが、できつつあるところではございました。

ただ、やはり会が成熟するとともに、お子さんもやはり大きくなってくるわけで、ライフスタイルがそれぞれ変わってくる。お引っ越しされる方もいらっしゃいますし、幼稚園に就園される方、保育園に就園されて、ご家族が復帰する家庭と、様々家庭のライフスタイルが変化していくといった中で、そういった事業というか、父親同士の関わりというところが、段々時間を経るとともに少なくなっていってしまって、なかなかそれが事業的に継続していくというところが、目標とする自助・共助でやっていくというのが継続的にやっていくのが難しい状況になっていったかなというところでございます。

ただ、この会を開催するに当たって、すごく良かった点というか、意外だった点が１点ございまして、このパパトーキングを始めるときの利用者さん、参加の方のどういった方が参加するのかなと想像して、スタートしたんですけれども、最初の想像は、ちょっと言葉があれかもしれないのですけれども、お母さんから「あんた行ってきなさいよ」と言われて、嫌々来るお父さんというのを何となく対象としていました。そういう方が集まるんだろうなという印象を持って、スタートしたところではございます。

ただ、実際にスタートして始めてみたところ、そういった方も一定数いたんですけれども、多くは、自分の意思で来ましたと、自分が子育てしていて、子育て仲間が欲しいから。自分が子育てするのは当たり前であって、ほかの父親がどういうことをやっているのか知りたいから、この会に参加したんだという方が、思った以上にというか、ほとんどの方がそういう方で、意識の違いというのをすごく改めて感じたスタートだったなというのは、鮮明に覚えております。

やはり、そのスタートをしたときに、一定数「お母さんから言われて、嫌々来ました」という方もいらっしゃったんですけれども、やはりその意識の高い方と仲良くなっていて、愚痴を言い合って、やり取りするんですけれども、その中で、やはり引っ張られて、自分もこんなことしましたとか、こんなふうにやってますみたいな感じの心境の変化というんですか。そういったものを感じることができる、良い機会だったなというふうに思っております。そこが本当にイメージしたものと、ちょっと大きく違ったなというところでございます。

実施日といたしましては、偶数月の第４土曜日、今、現在、第４土曜日ではございますけれども、以前は第２土曜日だったかな、第３土曜日で行っており

まして、ふた月に一遍、午前中の１時間程度ということで開催をしておりました。

対象者といたしましては、乳幼児を抱える父親ということで、参加のルールとして、子どもと一緒の参加も可能ですよというところ、一緒に来ても、スタッフと一緒に話し合いましょう、みんなで広い空間をつくり上げていきましょうというような、緩いルールにしております。

ですので、お子さんが泣いちゃったとか、お父さん自身が参加しづらくなってしまった。お部屋の中からお子さん、やっぱりその場にとどまっているというのも難しいお子さんもいらっしゃるので、外に出てしまったら、外に出てしまってもいいですよと、出入り自由にしますから、戻りたくなったら、また戻ってきてくださいねというような、そういう緩い会にしております。

また、その中でのルールとして、その会の中、フリートーキングの中で話されたことに関しては、会を出たら、他言はしないようにしましょうねというルールをつくっております。これによって、普段なかなか話すことができないことでも話せるようにするというのと、あとは秘密の共有ですね。お父さん同士で秘密を共有することで、仲間意識を醸成というようなことを考えて、一定の秘密は守りましょうというところでやっておりました。それの効果もあってか、なかなか普段お話しできないことというのも、結構、赤裸々に話されていたなというのは覚えております。

あとは、聞きっ放しの会にしましょうというルールでした。何か話された時に聞きっ放しにして、自分の意見というのも言ってもいいんだけれども、そういう強要するようなことはないようにしましょうねということで、そういったルールで会を実施していたというところでございます。

定員につきましては、７～８名程度というところで書いておりまして、これが、これ以上行ってしまうと、７～８名を超えてしまうと、一人一人の話せる時間というのがかなり少なくなってしまうということで、８名が限度だったかなというふうに思っております。１時間の中で、参加された方が少なくとも１回、２回程度は発言できるように、質問できるようにと考えると、これぐらいの定員がちょうど良かったかなというところでございます。

実施場所としましては、現在、子ども家庭支援センター地域活動室、このお部屋を使わせていただいておりますけれども、以前は下のお部屋でやっておりました。ほかの利用者さんからも見えるような感じでやっておりまして、「あそこ何やってんの」みたいな感じで、ちょっと注目を集めながらやっているというところでございます。

あと、大事なルールをすっかり１つ忘れておりまして、ルールとして、基本的には、この父親役割を担っている人だけが参加できるということが、このパパトーキングのルールになっていて、なので本当に興味関心のあるお母さんな

んかだと「ぜひ一緒に参加したい」とか、「お父さんのことが心配だから、１人で行かせられないから、私もついていきたい」というような話がよくあったんですけれども、「そこはちょっとごめんなさい、ご遠慮ください。」「見たいなら部屋の外からちょっとちらっと見てね」ということで、そういったお願いをさせていただいたところでございます。そんな理解、ちゃんと説明すれば、お母様も、ちゃんとそのあたりご理解いただいて、ご協力いただいたのかなというところでございます。

広報といたしましては、ホームページ、ツイッター、西部地区拠点親子ひろばのお便り、それから館内掲示をさせて、応募させていただいておりましたが、それのほかにも、親子ひろばのスタッフの皆様が、「こういうパパトーキングあるよ」ということで利用された、違うところで親子ひろばを利用されている方に、この会のことをお伝えいただいて、口コミみたいな形でご利用いただくということもありましたし、あとパパ友同士で、もともと関わりのあるパパ友同士が口コミで誘ってきたんだなんていうことも、結構あったかなというふうに思っております。

参加者数の実績といたしましては、下の表のとおりでございます。参加者数も、かなりばらつきがあるのと、私の思い描いている記憶よりはちょっと少ないのですけれども、もうちょっといなかったかなとか思ったのですが、これぐらいで、のびのびとやっていたんだなというのは感じております。

一番、最大で多かったのが８名というのが一番多かったかなというところでございます。皆勤賞のように参加していただいている方もいらっしゃいましたし、１回ぽっきりという方もいらっしゃって、最近の傾向から考えると、常連さんという方というのはあまり多くなくて、単発で参加されて、何か月かに１回、ちょろっちょろっと顔を出してくれるという人が多くなったかなというような印象でございます。パパトーキングについては、ざっくりと以上になります。

裏面に参りまして、「保育展示会の配布パパ向けチラシ」ということで記載させていただいております。

これは、今、現在、Ａ４のサイズでお出しさせていただいておりますが、実際は、もう一回り小さい、半分に折ったＡ５のサイズで作成をしております。これは、クリアポケットみたいなのに入れて、ティッシュであったり、風船だったり、そういった販促のグッズを入れながら、保育所展示会というものを毎年、国分寺市の中で行われておりましたけど、その中で、子育て応援パートナーを中心に、パパと一緒にいらっしゃっている方にお配りをさせていただいておりました。

こんなパパ向けのことをやっているよということを案内させていただいて、150 から 200 ぐらい毎年つくっていたかなと思いますけれども、こういったも

のを配布させていただいて、市内でパパ向けの講座ですとか、催し物を何かやっているよという広報をさせていただいていたということでございます。最後にやったのは、この令和元年度ですね。一番、最新のものが、このものになっております。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、保育展示会自体が開かれなかったり、感染拡大を防ぐためにということで、私たちも参加してなかったりというところがございますので、この令和元年度が、今のところ一番最新のものになっているというところでございます。

雑ぱくではありながらも、お時間多く頂いてしまって恐縮ではございますが、資料７につきましては、以上でございます。

事 務 局：それでは、資料８について、説明をさせていただきます。資料８－１につきましては、国分寺市の男性職員の育児休業取得率に関する実績になります。昨年の４月に制度が変更になっておりますので、変更になりました制度のチラシも併せて資料としてつけさせていただいております。

年度ごとに取得率にかなり開きがあるということになっております。担当課に、その要因等を確認させていただいたところ、個人の判断になるというところを前提に、はっきりとその要因というのはわからないということではありましたが、育児休暇だけではなくて、出産・産後休暇や育児参加休暇を取得していることも多いので、そちらを取得して、育児休暇というのを取っていないという職員もいる。そのほか、育児休暇を取得することによって、給料が３分の２になるため、経済面から取得しないという職員もいるとのことです。

続きまして、資料８－２になります。こちらは、市内 12 か所にある親子ひろばにおける父親の利用状況になります。平成 28 年から、令和４年までのものを、お示しさせていただいております。

年々、父親が、親子ひろばを利用する割合は増えてきております。参考までに、親子ひろばの全体ですと、平成 29 年 3.5%だったのが、令和４年に 7.5%ということで、この 10 年ほどで倍になっているという状況になっております。

また、ひろばごとに見ていただきたいと思うんですけれども、上段のほうの東恋ヶ窪の親子ひろばが、令和４年度 41.5%ということで急激に増えているというような状況がございます。これの要因については、いろいろ調べてみたものの、東恋ヶ窪の親子ひろば、３歳以上のお子さんの利用が多いひろばは，父親の利用も多い傾向がありますが，東恋ヶ窪では３歳以上が例年になく多かったというところではありますが、ここまでの急激な増加となったのかの要因については，つかめませんでした。

続きまして、資料８－３になります。こちらについては、男女平等共同参画という視点で、国が行った調査になります。

内閣府男女平等参画局が公表しました「男性の家庭・地域社会における活躍

について」の調査結果になります。ページ番号 24 をご覧ください。こちらにあるように，近所の人との付き合いの程度というのが、女性に比べて、男性は少ないというような調査結果が出ております。

男性単身世帯ですと「あいさつをする程度」が 52%、「つきあいはほとんどない」と回答する割合が、13.7%となっております。こちらの調査は、子育て世帯に特化したものではなく、男性全般に行った調査となっております。

また、43 ページに，コロナ禍の影響についても調査結果が出ております。コロナ禍による影響として、育児負担割合というのが、これまでより増えたと、こちらの調査で見て取ることができます。

また、国の調査結果の後ろに，平成３年 11 月に、東京都生活文化局が行った調査報告書をつけさせていただいております。東京都における男性の育休取得などの状況については、こちらで確認いただければと思っております。

なお、国分寺市において、男女平等推進計画策定時には、市民アンケートを実施しておりますけれども、そのアンケートは、実態調査というよりはニーズ調査であり，、国分寺市の状況を把握することが難しいため，今回、国と東京都の資料をおつけさせていただいております。

続きまして、資料８－４になります。こちらは、国立研究開発法人　国立成育医療研究センターが、2022 年６月１日から 11 月 30 日まで、ウェブを使って行ったアンケート調査の結果になります。

子育てに対するモヤモヤは、１人の時間が欲しい、子どものイヤイヤ期にどう対応したらよいか分からない、頑張っているのに子どもは母親を求めるなどが挙げられて、子どもの年齢が上がるにつれて増えていっているという傾向が出ていました。

これらのモヤモヤについては、１歳６か月時には、６割の人が解消できていないというような結果が出ております。３歳児では、７割の人が悩みを解決できていないという結果が出ております。後ほど、詳しくご確認いただければと思います。

資料９になります。先ほども触れさせていただきましたが、平成５年３月 22 日付で閣議決定をされました「成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し、必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律」の第 11 条７項に「基本方針を定めなければならない」とされており，その基本方針を抜粋版として、お示しをさせていただいております。

今回の変更で、「父親の孤立」について、初めて明記をされて、「父親の孤立を防ぐ対策を講ずることが急務である」とされております。

また、近隣市の父親支援の取組について、は現在調査中ですので、第２回の協議会で情報を提供できればと考えております。

説明が長くなりましたが、資料の説明、諮問内容の趣旨の説明は、以上とな

ります。ご審議のほどお願いいたします。

会　　長：ありがとうございます。ただいま事務局から資料のご説明を頂きました。それで、もう一度、この資料ナンバー５を御覧いただければと思いますが、今回、諮問がありましたのは、子ども家庭支援センターの地域組織化事業における父親支援、先ほどもご報告がありましたとおり、一見さんが増えてきつつあるというところと、それがために、なかなか自主グループとして、ここには来るけれども、そこから自分たち同士でつながっていきづらいというところがある。そういった点を含めて、この父親同士のつながりをどう考えていけばいいのか。そして、そのために、子ども家庭支援センターがどういう役割を果たせるのかといったところかなというふうに思います。

先ほどもスケジュールを見ていただきましたけれども、今期も委員期間が２年の間に２回の諮問が想定されているようなスケジュールになっているかなと思います。１年ないのですね。今年度内に答申をまとめて、提出をするというようなスケジュール感になっております。

今日は基本的な資料の確認とか、あるいはもっと聞いてみたいこと、あるいは、こういう点から考えるとどうかというような意見を自由に出していただいて、次回、さらにそれを深めていくというような感じで進めていければというふうに思っております。

ということで、私だけがたらたらしゃべっていても仕方がありませんので、積極的に皆さんのほうから、ご発言、あるいは確認されたい事項等ございましたら、よろしくお願いいたします。

こういうときは当事者にお話を聞くというのがいいかなとは思いますが、いかがですか、早速ですが。

委　　員：実際、うちの子もぶんちっちに来てるので、そのパパトーキングの会は知っていて、うちの妻もほぼ毎日のように来ているので、話は聞いていたのですけれども、私は会に参加したことがなくて申し訳ないんですが、さっき秘密の共有という話をしていたのですけれども、だから本当に何かそこは約束が徹底されているらしくて、ゆえに、参加しているご家庭の奥さんも、どんな話をしているのかは分からない。だから、僕の印象としては、そんな怪しげな会というところ、何をやっているか分からないところで、何かどんないいことがあるんだろうというのが分からない状況だったというところはあります。

それで、さっき愚痴とかという話をしていたんですけれども、そういう話とか、家の話とかできるんだろうなとは思いながらも、はじめましてから始まって、その話をする。結構大変そうだなとかと思って、じゃあ行かなくていいかなという判断をしていたという感じです。

会　　長：そういうパパトーキングの情報は、パートナーから入ってくるんですか。

委　　員：そう、何かパパトーキングというのがあるよというのは聞いていて、実際、奥

さんの仲いい、よくぶんちっちの仲いいお母さんのところのお父さんがパパトーキングに参加しているという話もしていたんで、「何々君のパパは行ってるらしいよ」みたいな話は聞くんだけれども、そこで何をしているのかは分からない。

会　　長：なるほど。守秘義務が徹底されているわけですね。余計、怪しさが増すような感じですかね。

委　　員：すみません。質問なのですけれども。基本的な枠組みとして、これは事前申込制なのか、フリーで行っても構わないのかというところを教えていただきたいんです。

会　　長：それでは、事務局お願いします。

事 務 局：事務局になります。パパトーキングは事前申込みではなく、当日参加していただいて、下に、ひろばにいらっしゃるパパさん上がってくださいみたいな感じでやっております。

委　　員：あと、対象というか、お子さんの年齢は大体どれぐらいのお子さんが、年齢のお子さんがメインになってらっしゃるんでしょうか。

事 務 局：やはり親子ひろばから参加される方が多いですので、未就学のお子さんをお持ちのお父様ということが中心になっております。小学生以上のお父様たちも、参加は拒んではいないのですが、やはり親子ひろばのイベントの１つという一面もあるものですから、未就学児の親御さんたちが参加しているという状況でございます。

委　　員：ありがとうございます。

会　　長：ありがとうございます。そのほか、ご質問等ありましたら。

委　　員：全体的なことで質問していいですか。

会　　長：はい、どうぞ。

委　　員：諮問の「支援センター地域組織化事業における」ということになんですけれども、今回、この協議する内容は、組織化事業というところをもう少し教えていただきたいのですけれども、支援センター内だけではなく、市内全体についての支援なのか。それとも、支援センターが担っている親子ひろばであったり、そういった事業についての支援についての協議なのかというところを教えていただけますでしょうか。

会　　長：この父親支援の大本になっている、この「組織化事業」とは何かというようなところですかね。

委　　員：はい。

事 務 局：事務局になります。資料の４を御覧いただければと思います。今年度の子ども家庭支援センター事業実施要綱になります。こちらのほうに、第４の（２）、こちらの１枚目の下のほうになります、地域組織化事業、子ども家庭支援センターが行う事業が様々記載をされている実施要綱ですが、こちらに、地域組織

化事業というもののご説明を記載をさせていただいております。

地域において、子ども、住民の自助・共助、子育て支援活動の促進というのが、子ども家庭支援センターが担う役割ということになっております。

今回、ご審議いただくものというのは、こういった子ども家庭支援センターが行っている、地域に対してアプローチをしていく中で、子ども家庭支援センターがどのように動いたらいいのか。本協議会は、子ども家庭支援センターの活動内容や運営について審議をするということになりますので、子ども家庭支援センターでどのように、どう地域にアプローチをして、この父親支援、今、パパトーキングを行っているかと思いますけれども、これがどうすれば、有機的な活動になるのかというような視点で、ご審議いただければと考えております。

会　　長：地域組織化というと、何か社協とかのイメージが福祉領域だとつきやすいんですけれども、もっと広く、子育てサークルみたいな、そういったこともイメージしていいというようなことでしょうか。そういうきっかけづくりをしていくような事業というところでしょうかね。

なので、あくまでも最初のきっかけをつくって、活動を自主的に行えるような基盤をつくっていくというところが、この組織化事業の趣旨かなと思いますが、それでよろしいですか。

事 務 局：はい、おっしゃるとおりです。

会　　長：ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

委　　員：聞き漏らしたかもしれないのですが、このパパトーキングは、西部地区のみで行っているものですか。

会　　長：事務局、お願いします。

事 務 局：事務局でございます。スタートは、西部地区でパパトーキングというものは行っておりまして、パパトーキングという形でやっているのは、今、西部だけかなと思います。

ただ、パパ向けの事業というのは、ここ以外でも、親子ひろばは様々やっておりまして、それがこの資料７の裏面を見ていただきますと、例えばスポーツセンター親子ひろばなんかであれば、土曜日に開催してますよというのがありましたし、あとは、その広場によって、あとは右下のもとまち児童館、パパＤＡＹなんていうのは、パパのための日みたいな感じでやっていたというところ。あとは、この別添の資料はあれですか、この「パパあつまれ！！」という資料ですね。

会　　長：資料ナンバーがついていないものですかね。

事 務 局：見ていただくと、「ゆいぼっこ～地域につなげるサポーター’s～」の方々が実施しているパパ向けの事業なんていうのもやっているというところでございます。以上でございます。

会　　長：ありがとうございます。いろいろなところに声をかけながらも、参加されやすいのは、ここのぶんちっちを利用されている方が多いイメージですかね。でも、ないですか。

事 務 局：そうですね。土曜日やっているところ、親子ひろばであれば、それぞれ日常的な運営の中で、パパ向けに何かやったりというのもあるかもしれません。そのあたりは、委員がいろいろ詳しく御存じかもしれません。

会　　長：その辺の実情、いかがでしょうか。

委　　員：私のほうは、市民室内プール親子ひろばを運営させていただいているんですけれども、コロナの前とコロナ禍と、そして今からというのは全然、もう本当に正直、今後はどうしたらというのが見通せないのが、正直なところで、コロナ禍というのでお話しさせていただくと、パパの育児休暇取得される方もものすごく増えて、広場にいわゆる３人一緒にいらっしゃる。どちらかというと、すごい積極的にパパ参加されるというのが、ものすごく増えたなというのは実感しています。

　それが、土曜日を今までは、コロナの前とかだと土曜日のほうが来やすいんじゃないかということで、うちも土曜日開設とかしていたんですけれども、平日、在宅ワークの方も増えたということで、隙間時間とかに最初は一緒に来られて、その後からは、パパと子どもだけで来るとか、ちょっとやはり大分状況が変わってきているのは正直あるので、曜日とかも、土曜に限定していったほうがいいのか、ただ平日にしたからといって増えるかというと、またちょっと難しいのですけれども、その辺もあるかなという気がします。

　去年の９月も、一斉に親子ひろば全体で毎年９月にアンケートを取るんですけれども、うちは去年パパのご意見が４通あって、かなり参加率が高かったかなと思います。

会　　長：なるほど。ありがとうございます。ぼちぼち増えてきているというのが、この資料８－２を御覧いただければ、育休の取得率みたいに、徐々に親子ひろば全体、父親の参加も増えてきている。お子さん一緒に、家族でということも増えてきているというところですかね。そのほか、お聞きしたいこととかありますか。

委　　員：質問ではなくてもよろしいですか。

会　　長：はい、どうぞ。

委　　員：ちょっと感じたことなんですが、何かパパ、どうしても根本的にパパとママの性的な本質の違いのところがちょっと気になっていて、パパもママと同じように、たくさんの人と集まって、愚痴を言ったりとか、そういうコミュニケーションを取ることが果たして本当にいいのかという。何かパパをママのように持っていくみたいなところが、ちょっと難しいところもあるのかなというところも感じたり。

あと、ちょっと仕事柄、ホルモンバランス、男女の差みたいなところもちょっと気になっていて、女性の場合の産後うつは、割と本当にホルモンの変化とか、日中外出ができないことによる影響でのうつが多いかもしれないんですけれども、また、男性の産後うつは、パートナーシップがうまくいっていないとか、ちょっとまた別物と考えてアプローチをしたほうが、ママがこれから育児しやすくなる子育てひろばというのと、パパが育児やすくなる子育てひろばに、違いが実はあるのではないかなというふうにちょっと感じました。

会　　長：ありがとうございます。ママ友サークルなイメージで、この事業を進めていいのかという、そもそものところですね。ありがとうございます。

委員、先ほど何かご発言ありましたでしょうか。

委　　員：すみません。私、お話を伺って、まさにそうかなと思ったのは、自主グループという、かなりハードルが高いもので、これが課題になっているというのは、母親たちもそうでありながら、グループ化というところに持っていくというのが、もうちょっと何て言ったらいいのですか、何かグループ化すると言われると、ちょっと面倒くさいなと。分からないですけれども、何かちょっとホルモンの関係もありますよね、きっと。

女性だと「ああ、グループ頑張ろう」みたいに思うのですけれども、男性が果たしてどうなのかなと、ちょっと私も男性ではないので。なので、ここのグループ化というところが、ちょっと引っかかったというところで、ごめんなさい。それなので、親子ひろばでいろいろやっていることは存じ上げてますし、お邪魔もしていますし、お父さんとお母さんの遊んでいる様子は十分見ているつもりではあるんですけれども、それが果たして、そこに行くのかなというのは、ちょっと気になったので。ちょっと少しストンとしました。

委　　員：すみません。ちょっとこれは行政の立場とは全く別な立場で、うちの家族の話ですけれども、親子ひろば、こういう年代ではなくて、小学校に入って、その小学校でおやじの会みたいなものがあって、今あるところ多いと思うんですけれども、そこに入ったら勝手に動き出しているんですよね、おやじだけで。

どっちかというと、異業種交流会的な感じになってきて、子ども抜きで父親だけが集まって、結構、飲み会を頻繁にやったりみたいなことがあって、ただ年代にもよるのかなと思うんですよね。やはり子どもたちが小さいと、あまり家を空けられなかったり、子どもセットだと負担は大きいのかなという気はします。

ただ、組織化できないわけではないと思うんです、おやじの会が……。ちょっと子どもの年齢で、乳幼児さんメインだと、なかなか厳しいのかないうのはあります。

会　　長：でも、事務局のイメージとしては、孤立化というか、そういうひろばをつくって、育児に対する、何ていうのか、モチベーション維持みたいなところと悩み

相談というところですかね。どうでしょうか。

事 務 局：事務局になります。事務局のイメージとしては、やはりグループに必ずしもしようということではなくて、父親の方はやはり地域とのなかなかつながりが少ないというところを、地域とのつながりをつけていくためのきっかけとしているところです。

今回、このテーマにする中で、父親のニーズが非常に難しくて、どこを求められているのかというところも踏まえて、父親支援というのが、今後も家庭支援センターとして、どうアプローチできるのかというところを、なかなか難しいテーマを皆さんにご審議いただくことになってしまったので、本当にぜひ当事者の立場から、父親とは、どういうものを求めているのかなというところも併せて、ご意見いただければと思っております。

追加で、本当にここの組織化事業として、今、やっているので、サークルをつくったり、グループになってもらって、地域に根付いてもらって、育児が楽になるようなつながりをつくりたいという思いでやっているのですけれども、自主サークルに必ずなるって、お母さんでも難しいと、今、働く方も増えていて分かっているので、そこまで目指すのがいいというお話があれば、それに向かって頑張るんですけれども、やはり何か違うんじゃないかなという気持ちは、我々にもあり、ずっと継続してくるのを目的にするのか、単発でもいいから、そういう場所があってというのがいいのか。

要は、お父さんが育てやすくなり、なおかつ、今、事務局が言ったように、地域に根を張って地域のつながりを持ってというのが、今、できる組織化ではないかなというふうに、ちょっとここの言っている「組織化」とちょっと違うかもしれないのですけれども、そんなふうに思っているので、パパトーキングという１つの事業についての、一応ご説明をして、ご意見をもらうのですけれども、父親支援って、こうあるといいよねというところと、地域とのつながりをつくるための仕掛けとして、この事業でいいのか。もっとこういうほうがいいのかというのも、あるのかなというふうに思っていますので、何かグループをつくるためのこの事業をどうしたらいいかという議論だけではないかな、というふうに思っているので、ちょっとすみません、何か難しい話し方になって。申し訳ないんですけれども、ご自由に発言を頂ければと思っています。

会　　長：ありがとうございます。必ずしも、おやじサークルをつくるというイメージではないというところですね。ただ、スタート地点としてあったのが、パパトーキングが既に動いていて、そこから、今なかなかうまくいかないけれども、父親の育児参加を支えるための地域とのつながりとか、同じ子育て世代同士でのつながりを含めて、考えていけばいいというところでしょうか。

事 務 局：はい。

会　　長：ありがとうございます。別に秘密結社でなくともよいということではあるかな

と思います。委員は、どうですか。地域とのつながりは。

委　　員：私は、ずっと国分寺には住んでいるんですけれども、家を買ったのが１年前ぐらいなので、地域に自分が根を張ったのが、そのぐらいという印象なので、そこからご近所さんとの関わりができたりとか、それこそ、ぶんちっちに来るようになったりとかすることで、何か地域の人と話す機会になっているなという感じはするのですけれども、今お話聞いていて、最初はぶんちっちに来るのもあまり、わざわざぶんちっちではなくてもという印象がすごく強くて、正直、子どもと一緒に遊ぶんだったら、公園に行けば、子どもと一緒に遊べるし、ぶんちっちに行って、何かどうなるか見通しが持てないから、ぶんちっちを選ばずに公園に連れて行ったりとか、奥さんの１人の時間を確保するために、子どもと一緒に過ごすのはいいのだけれども、その過ごす先がぶんちっちではなかった時期があったんですけれども、やはりさっきおっしゃってたように、最初３人でぶんちっちに来てから、ちょっとずつ３人で来るようになって、そうすると、スタッフさんと顔見知りになってたら、知ってるお母さんとか、知ってる子どもがいなくても、取りあえず２人だけでもスタッフさんが必ずいてくれるからという安心感はあって、ぶんちっちに参加できるようになって、そうすると、公園の時にはなかったつながりが、そこから始まりはじめて、だから公園ではなくて、ぶんちっちに来るということで、地域とつながれるという良さは、すごく感じはしました。

　けれども、最初のそこのハードルが、多分、どの家庭にもあるのかなという気はしました。

委　　員：はい。

会　　長：委員。

委　　員：今のお話を受けてなのですけれども、親子ひろばとしては、やはりイベントという、何とかもありますよというのでお知らせすると、コロナ禍でも来やすい、知らない人が多くても行ってみたいと思うとか、やはりこういうものがあるから行くという方が圧倒的に多くて、やはりその内容がパパも一緒に行けるような内容であればあるほど参加率は正直高いので、親子ひろば全体とは言わないのですけれども、市民室内プール親子ひろばは、やはり最初にパパだけという前の、みんなで来てもらえるような内容のイベントをたくさん組む。いつ来ても、例えばこういうイベント、平日ならこれとこれとこれがあって、土日はこういうのがありますよみたいなのを出していて、どれかに、まず最初に来ていただいて、今の委員のお話のように、何回か来て、スタッフと顔見知りになってもらって、いつ来ても安心できるという、まずそこからスタートというのは心がけています。

会　　長：なるほど。きっかけづくりのところですね。

委　　員：何もないところに行く。急にどんな場所かも分からないところに「行ってき

て」と言われても、多分行けないと思うんです。

委　　員：コロナ前なのですけれども、実は、うちの主人、結構パパトーキングに参加させていただいていまして。

会　　長：そうだったんですね。

委　　員：はい、そうなんです。土曜日に、ここ開いていて、しかも駐車場があるというのはすごくありがたくて、私が家で普段できない家事とか、子どもを連れて、車で来て、しかもパパトーキングなんていうと、すごくありがたかったです。

ちょっと子どもが大きくなって、最初は、私にした相談も、「じゃあ、パパトーキングで聞いてきたら」とか言って、ちょっと話しできたよとか言って聞いたこともあって、「良かったね」とか言ってたんですけれども、ちょっと大きくなってくると、相談を受ける立場というか、自分がアドバイスをする立場になったりして、家だとやはりここのアンケートにもあるんですけれども、どんなに頑張っても、子どもはお母さんだから寂しい、報われない。結局、おっぱいで持っていかれるという。

俺は雑用係に徹するしかないのか、雑用というか家事なんですけれども、嫌みたいで、やはり子どもに自分に向いてほしいというのがある。何か自信をなくしていくというところにパパトーキングで聞かれて、こういう話ししたよというアドバイスというか、自分の経験を話したというのが、自信につながったり、パパ自身の自信につながって良かったなと思っていたのですけれども、やはり子どもの年齢が上がってくると、ぶんちっちひろば、なかなか行きづらくて。何かもう行きにくいなと言ったことがあったので、やはり子どもが大きくなってからも、パパの居場所というのが、ぶんちっちひろばではなかったとしても、どこかであるといいなというのは、今も思っているところです。何かいろいろ言いたいことが。

さっき男女の違いというお話が出たんですけれども、もう男女は脳が違うというふうに聞いたことがあって、女性は、結構、愚痴を言い合うことで、結論が出なくても何かすっきりしたというのがあるんですけれども、何か主人というか、男性の場合は、あんまり自分の子どもと、また、ほかの子どもは違うから、あまり話しても、また専門家の話を聞いても、それが自分の子どもに当てはまるとは思えないし、そこで話して、あまり意味を見出せないというか、結局、自分が育てて、やっていかないことには分からないよねというのは言いますけれども、なので、求めているものが、やはり違うのかなというふうに思いました。

子どもが幼稚園とか小学校に入ると、保護者競技というのが運動会にあって、それに出て、綱引きで勝ったら、子どもにすごいアピール、子どもに、そういう頑張っている姿を見せたいとか、子どもと一緒に親子競技で抱き上げて、玉入れをするとか、そういうのをすごく頑張ってくれたりとか、そういう具体的

な子どもと一緒に関わる中で、関係性を築いていって、父親としても成長というのですかね。自信を持っていくものかなと、何となく今のところ感じていました。

実は、今日、娘に、小学校３年生の娘なんですけれども、父親、お父さんって、どういうふうにしたら、子育てに参加できるかというお話なんだけどねと言ったら、そうしたら、「もっとお父さんと信頼関係を持ちたい」みたいなことを言って、何かやはり困ったら、お母さんに来ちゃう。過ごす時間が圧倒的に母親のほうが、うちの場合は多いので、お父さんとも遊ぶんですけれども、困ったときはお母さんとなってしまうので、本当に分かってくれるのは、お母さんとなってしまっているので、やはり信頼関係とは、もっと時間を一緒に過ごすとかかなと思っています。

なので、母親ではできない体を使った遊びとか、外遊びとか、ここは、でも、ぶんちっちひろばは室内なので、室内限定の競技になってしまうのかもしれないんですけれども、例えば、地域のどこか大きな公園でスポーツ大会、スポーツ大会というかミニミニ運動会ではないですけれども、スポーツみんなでしようという集まりがあったら、お父さんもそこを目がけて行きやすかったりするのかなというのは、日常的に感じています。ちょっと協議とは、それてしまうかもしれないのですけれども、以上です。すみません。

会　　長：ありがとうございます。

委　　員：よろしいですか。共働き世帯が増えてきて、ワーキングマザーが増えてきている中で、その中の子育てで、結構、本当に現実的に、何ていうのかな、父親に仕事を担ってもらわないと回らないという実態があると思うんです。なので、母親が料理をつくらないと回らないとか、母親が子どもの準備をしないと回らないみたいなところで、何で２人の子どもなのに、私ばかりが世話をするんだみたいなイライラから、父親にイライラ、何というんですかね。けんかが始まって、父親は何で僕も頑張っているのに、奥さんは認めてくれないんだというやり取りがあるのかなというふうに思っていて、父親も頑張りたいんだけれども、何を具体的にやったらいいかというのがあると思うんです。

なので、例えば、その地域の離乳食づくりとか、そういうのもパパが離乳食つくってもらえたら、それだけで助かるし、ご飯一品つくってもらったら、それだけで助かるし、保育園に連れていくのも、準備はママがやってパパに送ってもらうだけではなくて、準備からやってほしいみたいな。実務がとにかくできてくれることが、パートナーシップがうまくいきやすくなるのかなと思うので、もし、この地域の中で、パパ集めるというふうに会があると、これから、できてくるとしたなら、さっきおっしゃったみたいに、目的が父親に対して、この会に出たら、じゃあ、離乳食を僕もつくれるようになるとか、おかずを一品つくれるようになるために行くというのがあったら、すごくママとしても助

かるのではないかなと思いました。

会　　長：押し出す側のメリットもあったほうがいいということですね。

委員、ＰＴＡということでしたけれども、私は、まだそこ未経験、未体験なんですけれども。

委　　員：確かに嫌がられてるＰＴＡなのですけれども、すごく温度差があるのが現状で、ＰＴＡすごく大好きでやるぞという人が幾ばくかいて、そのほかの人たちは、もうみんなＰＴＡやりたくない。ＰＴＡを改革というか、できればなくしたいみたいな動きが、いろいろな学校で市内で出ていて、あそこの小学校はＰＴＡなくなりました、ここもＰ連脱退します、ＰＴＡではなくて応援団にしましたとか、そんな学校ばかりが年々増えていく現状で、何とか皆さんの負担を減らしつつ、活動の質はキープできるようにみたいなのを、今、頑張っているところなんです。パパのいない子は、父性が欠けていて、小学校５年生ぐらいのときまで、男の先生にくっついていくようになったりする。

だから、やはり家庭におけるお父さんの力ってすごい大きいと思うので、何かしてくれるとか、してくれないんだとかいう差は、すごいあるんだと思うんですけれども、家庭に頼もしいお父さんが１人いるというだけで、それは子どもにすごい影響を与えていると思うんです。

このパパトークも、今はその参加者がすごく根づかないとかいう問題があるかもしれないんですけれども、長い目で見て、そういうことに一度参加したことがある人は、その後にもハードルが下がって、何かに参加しやすくなるというか、例えば、ＰＴＡにもするっと入れたり、私、そこの二小で学校キャンプの実行委員もしていたのですけれども、やはりそういうとこにもお父さんがするっと入ってきてくれたりして、やってくれる人はやはりやってくれる。お母さんばかりではなくて、お父さんが守り立ててくれるという場も必ずあるし、おやじの会もそうですよね。

やはり、その後にハードルが下がって参加しやすくなるという種をまいている場所なのではないかなとお聞きしていて、すごく思ったんです。

会　　長：ちなみに、学校キャンプというのは何なんでしょう。

委　　員：学校に泊まるんです、テントの中で。

会　　長：本当に学校。

委　　員：校庭にテント立てて、学校に泊まっていたんです、前。今やっていないと思うんですけれども。何年か前に、日帰りのデイキャンプにしようとかなってしまって、お泊まりはしなくなったと思うのですけれども、みんなで夜花火したり、たき火でマシュマロを焼いたり、夏休みにやるんですけれども、水鉄砲でみんなをびしょ濡れにしたりとか、子どもはこんな小さいのしか持ってきては駄目なのに、先生だけは、こんなすごいのを持って、みんなでものすごく遊んだ思い出が。

会　　長：そういう何かきっかけづくりというのが、いいかなというところですね。そのほか、いかがでしょうか。まだもう少し時間があります。

委　　員：質問なのですけれども、パパトーキングは、今はどなたか、男性のスタッフの方がされているのですか。

事 務 局：事務局になります。パパトーキングは、基本的に男性が関わるということになっております。今年度からはちょっと別のところから、ファシリテーターということで、男性の方に来てもらって、きっかけづくりを、どう種をまいていったらいいのかなというところを一緒に考えているところではございます。

委　　員：やはり男性の方を呼びたいのでしたら、男性のスタッフの方がやはりいらっしゃったほうが、参加しやすいのではないかなと思うんです。

委　　員：何か楽しいのかなという。そうですね。どうなのですかね。

委　　員：何となく男性の方って内容を、明確なものを見せたほうが、ふわっとしたお話し会とかというよりも、例えば、何とかを使って一緒に体操しようとか、さっきおっしゃったように離乳食を一緒につくろうとか、見て、はっきりイメージできるほうが。何かママの話だけ聞いて、受けてと言われるよりも、そういう視覚的なものと、明確なもののほうが伝わりやすいのかなとは思うんですけれども。

委　　員：そうですね。

会　　長：事務局に確認なんですけれども、ターゲットは父親でいいんですね。メインターゲットは父親なんですね、そこはぶれない。地域組織化事業として行う場合に、ターゲットは父親だ。で、その実施形態として、パパトーキングだけにこだわりはない。あったほうがいい。パパトーキングへのこだわりは、あったほうがいい。

事 務 局：パパトーキングじゃないやり方が、もしいいものがあるのであれば、それはそれで考えていきたいなと。運営協議会は、子ども家庭支援センターの事業の運営についての意見をもらうところなので、それを参考に、変わることもあるのかもしれないとは思っています。

会　　長：ただ、実施状況としては、今、パパトーキングをやってきて、コロナ以前はそれなりにうまくいっていた。それをコロナの影響もあって、なかなか当初の想定、イメージどおりには運営できなくて、これをどうしていこうかというところで、パパトーキングを前提としながら、それにとどまらない意見でもいいと。

事 務 局：それは、大丈夫でございます。

会　　長：はい。

事 務 局：もっと広く言うと、本当に地域組織化って難しいなと思っていまして、今回、パパトーキングをどうしようかなという現場の悩みがあったので、これを題材に出しているのですけれども、ここで結果出た意見を踏まえて、例えば、ほかの組織化って、いろいろお母さんもだし、障がい児の抱えるご家庭とかいろい

ろあるのかな。若い親御さんのご家庭とか、いろいろあるのかなと思って、ちょっとここの答申とはずれるかもしれないのですけれども、「組織化」と言っても、言ってもというか、別にサークルにならなくても、繰り返しになるんですけれども、地域に根づいて、地域で仲間ができて、子育てがしやすくなるというのが最終目的だと思っているので、組織化と言ってはいるのですが、そこに参考になるご意見があれば、何か必ずパパトーキングをこういうふうにして続けなさいという、最後、ご意見ではなくてもいいのかなというふうには思っています。

もっと言うと、ちょっと私が言うのもあれですけれども、今、女性とか男性とかという世の中ではなくなってきているところもあって、いろいろな家族形態があって、子どもも育てているので、それもちょっと気にはなりつつ、ただ、一方で、いわゆる父親のうつの部分とか孤立化というのも課題にはなっているので、というところと、現場のパパトーキングこのままどうしようという悩み等もあったので、ちょっと今回出させていただいているところです。

会　　長：いろいろな課題にひもづいているわけですね、この諮問は。ありがとうございました。

では、地域組織化ということで、先ほど委員は、この１年ぐらいで地域に根づいたなというか、地域への意識が向いてきたというようなお話がありましたけれども、どういったときに、それをお感じになりましたか。

委　　員：いや、私は、基本はぶんちっちと、あとは、ご近所さんが関わって、今の場がいるところかなと思うんですけれども、もともと今の家に越してきた時も、ご近所付き合いがしやすいような環境がいいなという思いを持って、住む場所を決めたというのもあったりとかしている。開発されて、一気に家が建つ場所であれですから、そういうところだと、みんなが同じ時期に住み始めるから、コミュニティーをつくりやすいかなとかと思って、そういうところを選んだりして、だから、もともとそういうつながりたいなと思っている側なので、ご近所さんとか、ぶんちっちに行って、話をしたりとかするのが好きなんですけれども、でも、多分、そうじゃない人もいると思うんですけど。

何と言うか、子育ての難しさとかが、人とのつながりによって解消されるというふうに思っていない方とかが、多分ターゲットになるのではないかなと思うので、そういう意味だと、ちょっとあまり参考にならないかもしれないなという感じです。

自分はもうつながりを求めて、つながりのおかげで救われているところはあるのですけれども、それを求めていない人にも良さが伝わるような、何かやはり関わると、本当に広がっていくだろうなという感じがします。

会　　長：変な話、つながらなくても生きていける時代で、何かつながりたいなと思うきっかけみたいなものは、あったんですか。

委　　員：ちょっと時間をもらってもいいですか。ちょっと今ぱっとは出てこない。

会　　長：出てこないですか。委員がなじみのない土地で、地域に根づき始めたかなというのを意識したのは、どういう時期ですか。

委　　員：私も同じように、分譲で住宅を購入したので、やはり子どもの年齢の近い家庭が近くにいて、子ども同士が育っているというのでつながっていましたかね。お父さんたちもみんな積極的に外に出て、子どもを見てるので、自分もやらなければという、積極的なお父さんは多いんですけど、なかなか活躍の場が限られているので、もったいないなとは思います。

会　　長：なるほど。逆に地域の側から、この人、最近、地域に入ってきた、根づき始めたなというのは、委員どうですか。何かこの人落ち着いてきたな、地域に溶け込んできたなと思うようなときはありますか。

委　　員：すみません、時間をください。何でしょう、うちの周りの、私はちょっと本当高齢化社会だったんです、周りが。もうじじばばストリートと言われて、そこに本当に家を割って、お母さんたちがすごい入ってきてくださったんですけど、コロナ禍だったんですかね。お父様が、お家で仕事をする関係上、昼間にお父さんが外で子どもたちとボール遊びをしたりとかしてるところを、私たちも何か楽しそうだねみたいな感じで入っていって、外で遊んでいる人たちって、声をかけてもいい人なんだなという、何ていうんでしょう。バリア張っていないぞと思って、こちらのほう側もずうずうしく入っていくという感じがあったので、今は、何か子どもが違う保育園に行ってるんだとか、個人情報的なものも話せるような関係になったので、やはりコミュニティーをつくったり、委員もおっしゃって、同じようなお家、分譲だと、そういうところってできていませんか。公園があったり、意図的につくったりとかしてますよね。そこに集まっている人たちが、集まっているというか、遊びに来た人たちが、ぽつぽつと何か関わり合っている様子というのは見受けられるので、やはり何か、きっかけが何かは分からないんですけど、関わりたいと思っている人は、ちょっと外で子どもを盾に遊んでいるかなという人たちが結構多いかなというのは、散歩しながらとか、見守りしながら、ちょっと見てる感じですかね。ちょっと全然話が違ってしまうのですけれども。

会　　長：でも、外に出ない限りは、つながりなんて。

委　　員：そう。だから結局、外に出ないとつながらない、そうですね。

会　　長：しかも、日中というのが。

委　　員：日中、そうですね。確かに。

会　　長：夜中に帰ってきた家庭ではないですよね。

委　　員：やはり土日であったりとかも、１人で今、お散歩してる人多いんですよね。走ったりしている人も多いのですけれども、やはりお子さんがいる人、小さいお子さんがいる人は、お子さんを外で遊ばせるというのをきっかけに出てくる。

それがつながり、本人たちが意図的にやっていないとしても、それがきっかけづくりにはなっているのかなというのは、見ていてあります。

それで声をかけるので、声かけると、「ああ、あのおばちゃん、あそこにも声かけてる」となって、この間は、「保育園どこがいいか」という話をしたという話を聞くと、やはりそこには絶対子育て中のパパとママだけではなくて、ちょっと終わったような人とか、そういう人たちが、男性とか女性にかかわらず、何か仕掛けの１つにしてもらえるといいなと感じていますけど、どうしても、小さい子を連れている人だけと入ると、多様性というのをすごく……かなとちょっと。男性だけ、女性だけではなく、年齢もあるというか思ったので、でも、どうしても子ども家庭支援センターなので、それはあれですよね。なかったことにしてください。すみません。

事 務 局：地域とのつながりを大切にしていますので，ボランティアという形で，多世代の方に子ども家庭支援センターの活動にご参加いただければと思います。

委　　員：大丈夫ですか。そうですか。

会　　長：やはり現実的に、水平、同質の集団ではなくて、そういうある種の斜めとか、縦の年齢的なつながりというのは今、どれくらいあるんですか。私、80 年代に地方で過ごした人間なので、お祭りとか、小学生でも普通に酒を出してくれるような、いいじゃない、お祭りのときぐらい、飲んだって、おちょこで一杯ぐらいならいいじゃない。ジョッキじゃないですよ、なめるぐらいならいいんじゃないぐらいの緩やかな地域だったので、いろいろなつながりがあったんですけれども。

委　　員：コロナ禍で本当に祭りができなくなり、子ども会の活動もできなくなり、町内運動会もできなくなりというのはあるんですけれども、そこで、私よりもちょっと年齢の高い人たちが、場所も何か、空き家はちょっと無理だったのですけど、場所をつくって、まずは同じような世代が集まり、そこには、意図としては、子育て中のお父さんやお母さんも来てくれたり、あとは、ちょっと学校に行けないお子さんたちが、ひょいと来てくれるような場所づくりをしたいというのは、たくさん、意外とつくっているという感じですね。何をやったらいいか分からないんだけど、どうしたらいいと言ったら、いるだけでいいんじゃないですかという話はするんですけど。

何かを、先ほどの話ではないですけれども、こうでなければ駄目だよという場所よりも、いろいろな人が関われる場所のほうが。やはり人数が少なくても、それが失敗ではなくて、長く継続、細くでもしたほうがいいのかなというところで、結構、西のほうが今増えていると、西のほうが、むしろ増えていると思うんです。東のほうが、ちょっとなかなか進んでいかなくてというところなのですけど、なので、西部地区すごくいいなと。こういったものがあるので、と思っては聞いていましたけれど。

会　　長：今回の事業のターゲット、男性をメインターゲットにする。その場合に、委員、あるいは委員がおっしゃっていたような、もともとのつながりがある、ネットワークがある中で、第２、第３のネットワークとしてのパパトーキングをイメージするのか。あるいは、委員がおっしゃったように、なかなか男性が家でいづらいというか、葛藤を抱える中で、家庭内、あるいは地域で孤立しているところの第１のネットワークというか、そういうものをイメージするのかで、多分、がらっと変わってくると思うんですよね。つくり方も運営の仕方も。

　当初の事務局の先ほどの説明のイメージだと、どちらかというと、後者のイメージだったんですかね。割と地域で孤立したパパをつないでいこう。でも、最近の傾向としてはそうではなくて、分譲を含めて、ある程度ネットワークがあるというか、同質の集団がそこにあると言うと、言い過ぎですかね。

委　　員：そうですね。ない人もいるとは思いますし。私はありがたいことに、そういう関係ができたので、あれなんですけれども。

委　　員：最近、国分寺の分譲住宅なんですけど、とても高いです。不動産屋さんに聞いたら、やはり共働きとか、年収１千万ぐらいがある家庭ではないと買えませんという状態というのがあるみたいで、それを考えると、今、国分寺市に新しく住んできている子育て世帯って、時間に余裕がない中で、共働きで、平日フルタイムで２人働いている、土日は自分の体も休ませる時間も必要という中で、地域につなげるだけの引力がやはり必要というか、何かちょっと今までみたいに専業主婦のご家庭が多かった中で、ママたちが普段から地域とつながっているのとは、また環境が変わってきてるのではないかなと思いました。

会　　長：難しい課題ですね、これね。本当に現代的な課題と言われれば、今まで全く検討すらされてこなかったターゲットで、しかも新しい社会状況の中でというところなので。

　委員、子育て負担感ってありますか。

委　　員：あります。今は、妻が産休、育休から、また次の子の産休で家にいる状況なので、割と楽ではありながら、やってもらいながら、来年度からは共働きに戻る予定なので、その準備もしなくてはならないみたいな感じなのですけれども、だから、やはり土日はそれこそ奥さんも、よく私が思っているのは、自分は平日仕事をしているので、子どもと触れ合うのは休みになるけど、今の状態では、奥さんは、平日子どもとずっといるから、子どもと一緒にいないことが休みになるから、私が子どもと一緒に遊びに行けば、お互い休みになるみたいな感覚ではいるんですけど。

　でも、やはり１人の時間が欲しいなとか、映画とかしばらく行ってないなとか、そういうことは思いながら、でもやはり子どもが小さくて早く寝るといえども、やはり１日中遊んでたら自分も疲れてしまって、夜、自分のしたいことはできないみたいな感じではありますけれども、今、この話、今日しなければ

いけない話だと、多分子どもと一緒にいる時間が楽になればいいかなという感じですかね。

何か私の１人時間をつくるための話し合いでないと思うので、子どもと一緒にいる時間が楽に、楽しく過ごせて、それが自然と地域とのつながりにもなるみたいな、そんなところだとありがたいのかなと。

会　　長：自分が、ある程度、今の状況でいいなと落ち着ける、安心できる場、プラスちょっと頑張ってみてもいいかなって思える場。もうちょっと手を抜いてもいいのかなって思える場でもあっていいのかもしれないですけど。

ある種、落ち着ける、安心して今の状況を受け止めてくれるメンバー、共感しやすいメンバーとして、ある種、同質の父、パパというのがあるんでしょうけれども。

委　　員：すみません。それで言うと、地域の方とのつながりとかという話、ご近所さんという話をしたのですけれども、やはりお母さんなんですよ、話すのが。結局、あの子のお母さん、いつも道路で遊んでいるときに、お母さん出てきてくれていて、見守ってくれているところに、うちも参加したりとかするんですけど。だから、お母さんとは話せるけど、お父さんとは話せないんですよね。道路に出てきてないからというのはあって、私も、結局、話しやすいのはお母さんかなという感じ。

けど、二小の運動会帰りで、そのご家庭とすれ違ったんですけど、お父さんと全然目が合わなくて、お母さんは「あっ」とか言ってくれたんですけど、だから、そういう意味では、お父さん同士のほうがいいのかなというのは、ちょっと分からないですね。

会　　長：なるほど。でも、すごくその感覚よく分かります。うちの家も、子どもを保育園に迎えに行く時に、やはりママが多いじゃないですか。「ああ」ってしゃべるんですけど、誰のお父さん、君みたいな、ただ、飲み会やると、「おお」とかってなって、最近、おやじ会をつくってくれたんでやっていますけど、なかなか普段出会わないですよね、父親同士って。

委　　員：そうですね。

委　　員：すみません。そもそもこのパパトーキングを実施するに当たって、実際、子育て世代のお父さん、お母さん方から、どういった感じでニーズを集めたのかなと。

委　　員：お願いします。

事 務 局 ：正直なところを申し上げて、26 年に開始しているんですけれども、私の子どもが長男から生まれたのが 26 年で、当時の上司から、父親らしいことをしろと。父親をターゲットにした、同じ境遇の人たちがいっぱいいるんだから、そういう人たちと一緒に何かをつくれという指示を受けまして、それだったら、

ひろば使ってくれているお父さんたちと、まず自分が仲良くなって、その中で、できることを一緒に考えていけるといいなというふうに思い始めたところで、委員のご主人も参加してくださって、一緒にやらせてもらったというような感じです。

会　　長：なるほど。

事 務 局：そのニーズを拾い上げてというよりは、何か父親のことで何かできないかなと考えたときに思いついたのが、じゃあ、父親で集まって何か話そうよというのをやろうというのをやったというイメージでございます。

委　　員：きっかけはそれだったとして、その後、実際やってみてどうだとか、そういったご意見の募集とかは、どんな感じで進められているんでしょう。

事 務 局：そうですね。コンセプト的に、最初の先ほど申し上げたように、スタートの時はあまり育児に積極的ではない方というのをターゲットにして始めたところだったんですけれども、実際にやってみたら、当時はやっていた「イクメン」という言葉ですね。俺たちは、そんなイクメンなんて言葉は嫌いなんだと。当たり前のことを当たり前にやっているだけなんですという人たちが集まってくれた。

正直なところ、それがすごくやりやすかったんですね。事業をしていく中で、意欲の高い方々が集まってくれたので、そこで事業としても進めやすく、では、次、いつやろうか、いつやろうか。では、いつ集まって、皆さん集まって、どんどん使ってください、花見もしたいねなどという話が沸き上がっていたくらいだったんですけれども、正直なところ、そこがうまくいっていたので、そこに何か課題はどこにあるんだとか、どこが課題なのかとか、今、うまくいっているけれども、尻すぼみしたときにどうしようかとか、そういった論点にはちょっと行き着かなかったというのが正直なところです。

　何かうまくいっていて、うまくいっていた中で、ちょっとコロナに入ってしまって、急激に尻すぼんでしまった。お子さんたちがそれに合わせて、お父さんたちも子ども家庭支援センターを卒業していったところがあったので、そういうところのニーズというのを把握できないまま、現状に行ってしまったというのはあるかもしれないです。すみません。主観の部分がちょっと多いのですけれども。

委　　員：まさに当事者ですね。

会　　長：本当にそれでよろしいですか。

委　　員：はい。

会　　長：ちなみに、その参加されたメンバーって、今もつながりはあるんですか。当事者として。

事 務 局：昨年度、私が相談担当のほうに異動になりまして、このパパトーキングの事業ができなくなってしまって、では、誰をコーディネーターにしようかというと

ころですごく困ったことがあって、そのときに参加してくださっていて、主にリーダー的な感じでやってくださっていた方にコーディネーターを、ではちょっと先輩パパとしてお願いしましょうか、みたいな形でお願いをさせていただいたところなんですけれども、ちょっとご家庭の事情でなかなかそれを継続することができなくて、今はもう、その方ではない方にお願いさせてもらっているところなんですけれども、正直、私のつながりとしてはそこぐらいまでで、今、現状どうなんでしょうね。ごめんなさい。

委　　員：パパトーキングの知り合ったお友達と今もつながっているというのは、ほぼないのではないかなと思います。子どもが大きくなってくると、段々やはり子どもが仲いい子と遊んだりなってくるのと、あとパパトーキングで知り合った後に飲み会というのに参加させていただいたことがあるんですけれども、母親の立場としては、飲み会って、ちょっと子どもを置いて、お父さんだけで行くの？と子ども連れてきていいよと言われてるよともいうんですけど、飲みの席に子ども連れていくのって、何かちょっと抵抗があって、何か母親の立場としては一緒に公園で遊んでとか、そういうつながりのほうに行ってほしかったなという。でも、女性と違って、男性って何かしながら交流するのって難しいのかなと。女性って何かしながらしゃべるとかできるんですけど、男性は何か１つのことに集中したい、話すなら話す、子どもを遊ばせるなら遊ばさせる。その考え方の違いがあったのかなと思っています。

　でも、つながっていてくれたら良かったなとは思います。お祭りとかなくなったのが、大きいですよね。ぶんちっちまつりとか、ご飯を食べるスペースがあったりとか、そういうイベントがあると、比較的大きくなってからでも集まりやすかったとは思う。これから、もしかしたら再開していくと、そういう場も出てくるかなと……。

事 務 局 ：あと、コロナ禍以前は、ぶんちっちまつりのときに、パパトーキングの参加者にポップコーンお店の担当をお願いし，地域活動につなげていたことがありました。コロナになり、できなくなり、まだなかなか再開できていない状況です。

会　　長：ありがとうございます。ぼちぼち時間が定刻に近付いておりますので、ターゲットは分かったけど、その手段をどうするかというところと、あとは、そのネットワークをどういう想定でやっていくのか。あるいは、きっかけづくりなのか、送り出す側の身にもなれよというところもあるし、何か持って帰ってきてとか、その後、飲みに行くのは勘弁と言われると、うーんと。何のためにつながりに行ったんだみたいなところもなきにしもあらずですが、私もおやじ会で飲みに行ったことがあるのですみませんという感じです。

　でも、やはりその間任せっ切りになるので、おやじ飲みに行くけど、ママは飲みに行かないから、余計罪悪感がこっちに残る。ママも飲みに行けばいいのにと思うのですけれども。

でも、そういうつながりをつくる。しかも横だけではない、地域を見越したということで行けば、ある種、パパトーキングというネットワークが地域への入り口みたいな、訓練する場所というとあれですけれども、地域に入っていく入口のようなイメージでもいいのかなと。今までの経験からすると、必ずしも継続しているわけではないけれども、それなりのつながりを意識できるだけの活動があった、経験もあるというところで、残り２回ぐらいの審議でまとまるのかなという不安はありますけれども、この後、運動会にも参加されるご予定もおありですので、ひとまず今日はここで終わらせていただいて、また次回につきましては、ちょっと事務局と相談をさせていただいて、どこに焦点を絞りながら、次回、審議を進めていただきたいというのを確認しながら、また進めていければと思います。

お疲れ様でした。

――了――